

海外での危機管理

北九州市立大学
国際教育交流センター

1

本学では、積極的に、学生の皆さんの海外留学、海外体験を推奨しています。

海外留学によって得ることのできる知識や経験は非常に大きなもので、自分を成長させてくれる場として大いに活用してもらいたいと思います。このように意義のある海外留学ですが、気を付けていただきたいことがあります。それは、海外で生活する上での安全の確保です。

日本は世界でも希に見るほど「安全」な国です。しかしながら、一歩海外へ出たらこの慣れは通用しません。日本で培われた皆さんの価値観や常識は、すべてが日本独自のものです。安全な日本での生活に慣れ親しんだ日本人が海外へ出向いた際に、予想もしない事件や 事故に巻き込まれるケースが非常に多く見受けられます。

海外におけるリスク

- ・緊急事態

 - 戦乱、クーデター、暴動、デモ、災害、火災、事故など

- ・犯罪被害

 - テロ、誘拐、強盗、スリ、置き引き、ひったくり、空き巣、詐欺、レイプなど

- ・交通事故

 - 交通事情や法規、習慣の違い(右側通行、左側通行、車優先など)

- ・疫病

 - マラリア、HIV、デング熱、エボラ熱、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなど

- ・薬物犯罪

 - 自ら所有する意思がなくても巻き込まれてしまう場合もある

2

では、海外に渡航あるいは生活する上で、日本にいるときとは何が違うのでしょうか。一般的に、アジアでは感染症のリスクが、欧州では泥棒のリスクが高いと言われています。

具体的には、まず、戦乱やクーデター、暴動、デモのように、日本のように政情が安定していれば、まず気にしないでもいいもののリスクがあります。災害や火災、事故などは日本でも起こりえますが、慣れない環境の中ではそのリスクはより高くなるものと考えられます。

次に、犯罪被害ですが、いずれも日本でもその危険性はあるのですが、海外ではそのリスクは高まります。スリや置き引き、ひったくりなどは日本人をターゲットにした事件も多く、特に注意が必要です。

交通事故については、車両左側通行への慣れや交通事情が感覚として身につけており、その違いを強く意識しておかなければなりません。また、国によっては歩行者よりも自動車優先だったり、さらに多くの国で車の運転が非常に荒いということも認識しておいてください。基本的に、横断歩道のないところでは道路を渡らないことが賢明です。

疫病については特に渡航前の情報収集が重要なポイントです。

薬物については、のちほど説明します。

元気に出かけ、
元気で帰ってくるために
海外での心構え「自分の身は自分で守る」

出発前にすべきこと

留学中気をつけること

もしトラブルにあったら

3

海外での危機管理の重要性を認識していただいた上で、これから具体的な項目に入ります。

みなさんが元気に出かけ、元気で帰ってくるために、海外での心構えは、なんといっても、「自分の身は自分で守る」ということです。

そのためには、①出発前にすべきこと、②留学中気を付けること、③もしトラブルにあったら、の3点について考えていく必要があります。

出発前にすべきこと

- 派遣先国情報の収集

外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

レベル1	十分注意してください。	十分注意
レベル2	不要不急の渡航は止めてください。	原則延期・中止
レベル3	渡航は止めてください。(渡航中止勧告)	中止(途中帰国)
レベル4	退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)	中止(即刻帰国)

最初に、出発前にすべきことについてお話しします。

まず、渡航する国についての情報収集を行っておくことが必要です。外務省海外安全ホームページでは、国別の情報を調べることができます。外務省の海外安全ホームページを開くと、危険情報が発出されていることがあります。

危険情報は、危険度が高まる順に、レベル1「十分に注意してください」、レベル2「不要不急の渡航は止めてください」、レベル3「渡航は止めてください(渡航中止勧告)」から、最高ランクのレベル4「退避してください。渡航は止めてください(退避勧告)」の4段階があります。

本学の留学プログラムについても、この情報に参考に危機管理を行っています。したがって、状況次第では大学としてプログラムを中止することや途中帰国を指示する可能性があります。危険情報は常に変わるので、出発直前や、渡航先でもチェックして見るようにしてください。

いずれにしても、連絡体制をきちんと備えておくことが大切です。留学中は大学への連絡と家族との連絡に努めるとともに、大学からもメール等により必要な連絡をすることがありますので、必ず確実に連絡が取れるようにしておいてください。

出発前にすべきこと

The screenshot displays two web pages side-by-side. The left page is from the Ministry of Foreign Affairs (外務省), featuring a navigation menu with categories like '海外保健情報' and '在外公館医務官情報'. The main content area is titled '世界の医療事情' (World Medical Situation) and includes a date '2013年11月'. The right page is from JICA (独立行政法人 国際協力機構), titled '世界の様子 (国別生活情報)' (World's Situation (Country-specific Life Information)). It features a world map with color-coded regions: 欧州 (Europe), 中国 (China), アジア (Asia), アフリカ (Africa), 北米・中南米 (North/South America), and 大洋州 (Oceania). Below the map is a disclaimer: '必ずお読みください' (Please read carefully) and a paragraph explaining that the information is provided for international cooperation and is based on the expertise of JICA staff.

この他、「世界の医療事情(外務省・在外公館医務官情報)」では、世界83ヶ国の医療情報や衛生事情、注意すべき病気、現地医療 機関についての情報を得ることができ、「国別生活情報(国際協力機構・JICA)」では、実際に現地に赴任している専門家等が執筆した、細かい情報を収集することができます。



次に、海外安全の護身術を身に着けることが大切です。

外務省では、日本人が巻き込まれた事例をもとに、「海外安全虎の巻」というパンフレットを発行しています。海外で生活する上において役に立つ情報が掲載されていますので、出発前によく読んでおいてください。特に、「旅先のトラブル事例と対策」ではいろいろな犯罪の事例が紹介されています。

留学中にトラブルに巻き込まれた場合は、自らの判断に基づいて対応しなければならないため、渡航前から危機に備えて必要な情報を収集し、危機を想定して行動する習慣をつけておくといでしょう。例えば「親切そうに近づいてきた人に飲み物を勧められて飲んだところ、中に睡眠薬が入っていて、その場で眠りこけてしまった。気が付いたら、持ち物がそっくり盗まれていた」という目に合うこともあり得ないことはありません。親切な人を最初から疑ってかかるのも残念ですが、海外では「用心に越したことはない」ということが往々にあるので十分に注意してください。

出発前にすべきこと

・健康診断

半年以上の留学へ参加する場合、健康診断を受けましょう。
既往症がある人は、事前にかかりつけ医の判断を仰ぎ、英文診断書を準備しましょう。

(参考)英文診断書について
「英文診断書・予防接種証明書作成の手引き」
<http://www.mcfh.net/healthrecordmanual.pdf>
日本旅行医学会「自己記入式安全カルテ」学生用
http://www.jstm.gr.jp/gakkai_karte.html

・常備薬等の備え

・渡航前に歯科治療を済ませること

7

渡航先によっては健康診断書の提出が求められます。その他の学生も、自分自身の健康状態把握のために、出来る限り健康診断を受けることをお勧めします。

また、既往症のある学生は、事前にかかりつけの医師に渡航の是非について判断を仰いだうえで、渡航する場合には英文診断書を発行してもらい、携帯しておくほうがベターです。さらに、そのような学生は現地での発病のリスクも考え、現地の病院について調べたり、保険が適用になるかどうかについて調べておいてください。特に海外旅行保険は、渡航前にかかった既往症をカバーしないことがあるので注意が必要です。

薬を使用している場合は、現地で適当な医療機関が見つからない場合のことも考えて、2～3ヶ月分の薬を持参するほうがよいでしょう。但し、海外へ大量の医薬品を持ち出す場合は、検疫等で問題が起こらないように必ず医師の証明書を一緒に持参してください。

常備薬については、処方箋がないと市販薬が買えない場合もありますし、一般の薬局で売っている薬でも日本で手に入るものとは異なる場合があるため、頭痛薬、生理痛薬、風邪薬、胃腸薬などは日本の医薬品を持参することをお勧めします。欧米などの市販薬は成分の分量が日本とは異なり、人によっては強すぎる場合があります。また、コンタクトレンズを使用している人は、常備薬同様その備えもしておいてください。

海外での歯科治療は、学研災付帯海外留学保険の対象外です。つまり、治療費は全額自己負担ということです。歯科治療の費用は高額なので、渡航前に日本で治療を済ませておきましょう。くれぐれも注意してください。

出発前にすべきこと

・医療形態の違い

①日本

フリーアクセス、国民皆保険制度、非営利

②海外

営利事業、GP制度、ファミリードクター制度、
オープンクリニック、高度分業制

8

次に、医療制度の違いについて簡単に説明します。

日本では、医療機関はフリーアクセス(どの病院に行ってもよい)になっています。また、基本的に病院は非営利団体であり、国民皆保険制度のもと、基本的にはどこの病院に行っても同じような額の治療費になります。

これに対して、海外、特に欧米では、GP制度(**General Practitioner**)やファミリードクター制度:総合開業医(かかりつけ医師制度)の制度が多く、いわゆる、「オープンクリニック」システムが一般的です。このシステムでは、病院が一般のホテルのような存在として扱われ、かかりつけの主治医が契約する病院から施設や病室を借り、看護師等スタッフの派遣を受けて、主治医自らがその施設を利用して治療を行う形です。医師の技術料は医師によって異なり直接医師から患者へ請求されます。また、検査や医薬品もそれぞれの検査機関や薬局から患者に直接請求されます。また、病室の単価についても同様で、それぞれが独自の判断で金額を決めることにより、結果的に、高額の治療費が請求されることがあります。欧米では医療が営利行為ととらえられているため起きる事象です。

また、医療機関を受診する際は、加入している海外旅行保険会社に連絡した上で受診するようにしてください。

留学中気をつけること

<安全な海外旅行のための心得5箇条>

外務省ホームページ http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/message.html

1. 現地の法律を守り、風俗や習慣を尊重すること。
2. 危険な場所には近づかないこと、夜間の外出は控えること。
3. 多額の現金、貴重品は持ち歩かないこと。
4. 見知らぬ人を安易に信用しないこと。
5. 薬物には絶対に手を出さないこと。

9

ここで外務省HPIに掲載されている <安全な海外旅行のための心得5箇条> を紹介します。

①現地の法律を守り、風俗や習慣を尊重すること

留学先ではその国の法律に従って行動しなければなりません。ある行為が日本では比較的軽い犯罪と見なされていても、国によっては想像もできないほど重い犯罪に該当することもあります。各国の法律は、その国の宗教や文化等と密接に繋がっています。留学中はその国の法律を守り、風俗や習慣に配慮した行動を常にとるよう心がけましょう。また、飲酒についても年齢制限等、国によって事情が異なりますので十分注意してください。

②危険な場所には近づかないこと、夜間の外出を控えること

一見、安全と思われる国・地域でも特定の場所や時間帯によっては、危険な場合があります。事前に渡航先の犯罪が多発する場所をチェックし、そうした場所には近づかないことが大切です。また、夜間の外出には様々なトラブルがつきものです。特に少人数での夜間の自由行動は、場所を問わず控えることをおすすめします。

③ 多額の現金、貴重品は持ち歩かないこと。

一般に、日本人観光客はお金持ちで不用心という印象を持たれています。路上や観光スポットで日本人をターゲットにしたスリや置き引きも各地で多発しています。犯罪者に目を付けられないためには、派手な身なりは避けること、万が一犯罪に遭遇しても、最小限の被害ですむよう外出時には多額の現金や貴重品は持ち歩かないようにしましょう。

④見知らぬ人を安易に信用しないこと

日本人は外国人から詐欺の格好のターゲットとされています。特に個人で旅行をする若年者が、旅先での旺盛な好奇心から見知らぬ人の誘いに安易に乗って、自宅に誘われたり、飲食物をすすめられたりして、「いかさま賭博詐欺」や「睡眠薬強盗」の被害に遭った例は少なくありません。見知らぬ人から親しげに声をかけられても、安易に信用することは禁物です。基本的に、向こうから寄ってくる人は注意したほうが賢明です。「友達は自分から作る」ということを心掛けておくとよいでしょう。

⑤薬物には絶対に手を出さないこと。

留学中気をつけること

想定外の事態が起きる可能性

・2014年10月、カナダ・ケベック州において兵士を自動車で轢き殺害したテロ事件、同じくオタワ市中心部において守衛兵士をライフル銃で射殺し、連邦議事堂内へ侵入したテロ事件が連続して発生

・2016年7月1日夜、バングラデシュ首都ダッカ市内のレストランにおいて、数名の武装グループが人質を取って籠城し、日本人7名を含む約20名を殺害、多数が負傷する事件が発生

・2016年7月6日・7日（現地時間）、ルイジアナ州及びミネソタ州にて、警官によるアフリカ系アメリカ人男性の射殺事件が発生。7月8日、これら一連の事件に対する抗議行動が全米各地で発生し、特に、テキサス州ダラスにおける抗議行動では、報道によれば、デモ隊の近くで発砲があり、警官5名が死亡。

（出典）外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

10

第二に、留学中に気を付けることを説明します。

2014年にカナダで起こった事件、2016年7月に発生した、バングラデシュで起きたテロ事件、米国で起きた発砲事件です。これらは、いずれも想定外の人的、物的損害の発生する機会ととらえる必要があります。

このようなケースについては危険を完全に防ぐということは不可能ですが、それぞれの渡航先国の治安、犯罪の傾向、政治、生活環境、衛生状況、自然災害の頻度や過去のデータ、文化・習慣・国民性をはじめとして、派遣先大学での住居、大学や住居の周辺の治安状況（たとえば大学内に銃の持ち込みは許可されているのかなど）などを確認しておくことで、ある程度危険を回避することができます。現地に着いてからも、このような情報収集と情報分析を行うことがとても大切なこととなります。

留学中気をつけること

銃撃・テロ事件に遭遇する危険性

- 外国関連施設(大使館や外国系銀行)、宗教施設
- 公共交通機関(地下鉄、バス、空港など)
- リゾート地、ホテル

十分な安全対策をとっているホテルを選び、ホテル入口やフロントなど、簡単に入れる場所にいる時間を短くする。

- 市場・繁華街、観光スポット

人混みや外国人が多く集まる場所にできるだけ近づかない。
ガラスを多く使用した建造物の周辺は通行しない。
夜間、特に深夜の外出は控える。

11

近年、世界各国でテロ事件が起きていますが、テロが起きる危険性が高い場所に注意することで、事件に遭遇するリスクを避けることができます。

・アジア・アフリカ・中東での外国大使館や外国系銀行を狙った爆発事件や、アジア・中東の宗教施設での爆発事件が発生しています。

・欧州の地下鉄、バス、航空機での自爆テロや、アジアのバスターミナルでの爆発事件が発生しています。

・中東・アジアの首都やリゾートのホテルでの自爆テロや銃撃事件が発生しています。安いホテルは、安全にお金をかけていないものと考えてください。ホテル宿泊の際は、十分な安全対策をとっているホテルを選び、ホテル入口やフロントなど、簡単に入れる場所にいる時間をできるだけ短くするよう心掛けてください。

・中東・アジア・欧州等の市場や繁華街での銃撃・爆破事件が発生しています。人混みや外国人が多く集まる場所にできるだけ近づかないこと、ガラスを多く使用した建造物の周辺は通行しないこと、夜間、特に深夜の外出は控えることを心掛けてください。

また予防策として、以下のことを心掛けてください。

- ・危ない国・場所・時間帯を避けること(外務省「海外安全ホームページ」で情報収集)。
- ・直接の標的とならないために、用心を怠らないこと、目立たないこと。
- ・周囲の不審者や不審物に注意を払うこと(大きな荷物、不自然な厚着等)。
- ・非常口などの退避ルートを確認し、隠れられる場所を確認すること。

万が一、銃撃・爆発事件に遭遇してしまっても、次のように対策を講じ、パニックに陥らず、被害をより小さく食い止めることが重要です。

・爆発音や銃撃音を聞いたら、その場に伏せて頑丈なものの陰に隠れてください。

・事件現場に居合わせたら、周囲を確認し、可能であれば銃撃音等から離れるよう速やかに、低い姿勢を保ちつつ、安全なところに退避してください。

・建物等の下敷きになったら、体力の温存努め、有害物質を吸い込まないこと、パイプなどを叩き居場所を伝えるようにしてください。

・日本大使館や総領事館に連絡してください。

留学中気をつけること

- ・在外公館への「在留届」「たびレジ」提出
及び現地の危険情報の収集
- ・危機管理体制の把握と定期連絡
- ・医療機関、医療サービス



12

3か月以上の滞在の場合、現地の日本大使館など在外公館に「在留届」を提出することが旅券法により義務付けられています。該当する学生は入国後なるべく早い時期に、手続きを済ませてください。また、在外公館のHPや、先に述べた外務省海外安全HPを定期的にチェックして、留学先の危険情報について把握するよう心がけてください。

留学先大学における危機管理に関する情報収集を行い、緊急時の対応対策と連絡システムは必ず把握してメモを携行しましょう。また、派遣・交換留学など長期のプログラムの場合は、定期連絡として月1回、国際教育交流センターへ安全確認のメールを送ってください。

海外で病気やケガをした場合に備えるため、全員、学研災付帯海外留学保険に加入してもらいます。後程、説明しますが、この保険の相談サービスを活用してください。

留学中気をつけること

薬物の「運び屋」に利用されるケース

- 知人から、日本にいる友人へ「チョコレート」「コーヒー豆」「書類」などを運んでほしいと依頼される
- マーケットなどへ行き、チョコレートを一緒にいる場所で購入→「空港まで、荷物を持ってあげるよ…」→空港までの間のどこかで、薬物入りのチョコレートとすり替える→知らないうちに「運び屋」に
- 女子学生がカナダ人の恋人に頼まれて→「日本国内にいる男性にスーツケースを渡してほしい」→「覚醒剤が入っているとは知らなかった」と訴えるが、空港で覚醒剤取締法違反で逮捕

13

特に薬物犯罪については、近年、多くの国が取締りを強化しています。死刑を含めた厳罰でのぞむ国も珍しくありません。実際、旅行中に軽い気持ちで薬物に手を出した人や、知人からの依頼を断りきれずあるいは軽い気持ちで「運び屋」を請け負った人、こうした方々の中には、その後の人生を台無しにするほどの重い刑罰を科せられた例もあります。ここに述べるようなケースがありますので、十分に気を付けてください。また、自らの安全のためにも、薬物に手を出すことは絶対にやめましょう。

留学中気をつけること

クレジットカードの管理

- ・クレジットカードは便利だが、クレジットカード情報が盗まれて思わぬ被害に遭うことも！
- ・紛失、盗難や被害に気づいたら、海外からでもただちにクレジットカード会社に連絡を！
カード会社の緊急連絡先は、必ずメモにまとめて持参すること



14

クレジットカードの管理について説明します。

クレジットカードは多額のお金を持ち歩かずに決済できるのでとても便利です。とくに、外国の銀行で引出しできる機能のついたカードは、手持ちのお金が現地で足らなくなったときもお金を引き出せて便利です。また、ホテルや交通機関、コンサートなどイベントの予約を受け付けてもらえたり、ホテルのチェックインのデポジット(保証金)替わりになるなど、いろいろ便利で、渡航前にできれば一つ作っておくことを勧めます。新たに作るのであれば、VISAカードやマスターカードなど普及しているカード会社と提携しているカードがよいでしょう。

しかし、便利ではあるクレジットカードも思わぬ落とし穴があります。

たとえば、クレジットカード情報が盗まれて思わぬ被害に遭うこともあります。ネットカフェやホテルのパソコンなどを使う場合に、むやみにクレジットカード情報を入力しないようにしてください(ログ情報の管理は徹底する)。露天など怪しげな店で使わないようにすることも大切です。もし、失くしたり、盗まれたり、その他被害に気づいたら、被害を最小限にとどめるため海外からでもただちにクレジットカード会社に連絡をしてください！クレジットカード会社の連絡先はあらかじめ控えてください。

留学中気をつけること

・メンタルヘルスと異文化適応



・銃社会への対応



15

異文化の地で暮らすようになると、相手から思うような反応が得られなかったり、自分の行為が意図していない形で受け取られることもあります。いわゆるカルチャーショックとは、知識と感情と行動の3つのレベルに不一致が生じることで発生すると言われます。たとえば、挨拶をするときに人前でも気軽に抱き合ったり頬を摺り寄せたりすることが、現地では一般的なことだと知っていても(知識○)、恥ずかしくて(感情×)、そうすることができない(行動×)ことがありますし、そうすることができても(行動○)、気持ちとしては我慢している(感情×)ということもあります。こうした違和感を感じる際には、知識もまだない状態だと言えます。しかし、初めから知識をもっている人はおらず、カルチャーショックは誰にでも訪れるものです。そして、この経験はときにたいへん辛いものではありませんが、ない方がよいのではなく、それを通して異文化を学び、異文化で生き抜く力を養う機会になっているのです。

現地の文化や人々の行動に対して否定的な感情を抱く可能性もあります。そうした否定的な感情を改善するためには、現地の人々の行動や考え方に対して自分がどのように「捉え、考え、評価解釈するのか」を書き出してみるとよいでしょう。それが否定的であれば、それに対しての別の見方、肯定的な捉え方を考えてみるのが大切です。しかし、こうした感情に圧倒されて日常の生活や学習が妨げられていると感じるときは、躊躇せずに留学先大学のカウンセリングセンターを訪れてください。カルチャーショックは、知識が得られることで容易に解決することもありますし、カウンセラーとの対話を通して異文化での生活を客観的な目で見つめなおすことができます。そのことが異文化適応力を高めることにもなります。

次に、欧米諸国では一般市民が銃を所持している比率が非常に高く、特にアメリカでは銃関連の犯罪が多発しています。アメリカの多くの大学ではFirearms Policy(銃規制に関する政策)を設けていますが、キャンパスに銃を持ち込むことが可能な大学(許可制や登録制)も少なくありません。米国の大学のHPにはPolice DepartmentやSecurity Office等の部署が独自のページを設け、キャンパス及びその周辺の治安や犯罪関連の情報収集ができるようになっていますので、必ず確認しておきましょう。また、すべての留学先大学について言えることですが、夜間の移動等では決して1人で歩かず、Campus EscortやSafe Walk等のサービスがあればこれを活用しましょう。多くの大学ではUniversity Policeなどが24時間体制で警備を行っています。

留学中気をつけること

○ホームステイの注意点



16

ホームステイはホテルに滞在しているわけではないので、生活習慣の違いや価値観の違いなど、不都合なことに直面することもあります。まず、こうしたことも異文化理解の一環として受け入れることが基本です。

ホストファミリーが留学生を受け入れる目的は、子どもの教育の一環として外国人に触れる機会を与えたいという家庭、もう自分の子どもが大きくなって独立して部屋が余っているので有効活用をしたいという家庭、退職をして時間に余裕ができたので海外からの生徒と交流をしたいという家庭など様々です。このため、週末と一緒に過ごそうとしてくれる家庭があったり、お互いに必要以上に干渉せずドライな関係が続ける家庭があったりと、それぞれです。また、家族構成もさまざまです。外国では片親の家庭も多くあります。また、共働きで、子供は学校や保育園に通っている家庭、子供がいない家庭や、子供が独立し夫婦だけの家庭もあります。このような色々な家庭環境の「ファミリー」があなたを迎えることになります。

さらに、～系アメリカ人、～系カナダ人といったように、他国からの移民がホストファミリーになることもあります。だからといって、ホームステイの手配を依頼するときに人種や家族構成を指定すると、差別とみなされてしまいます。移民の多い国では、どんなバックグラウンドの人でも、その国の住人として生活していることを理解しておきましょう。

また、どんなに良い人でも習慣や考え方の違いによるトラブルは避けられません。できるだけトラブルを大きくせず、円滑に対処するように努力しましょう。忘れてはいけないことは、ホームステイに滞在する学生は“お客様ではない”ということです。ゲストのようにおもてなしをしてくれるとか、週末もどこかにつれていってくれるといった過剰な期待をしたり、特別な扱いを要求しないようにしましょう。

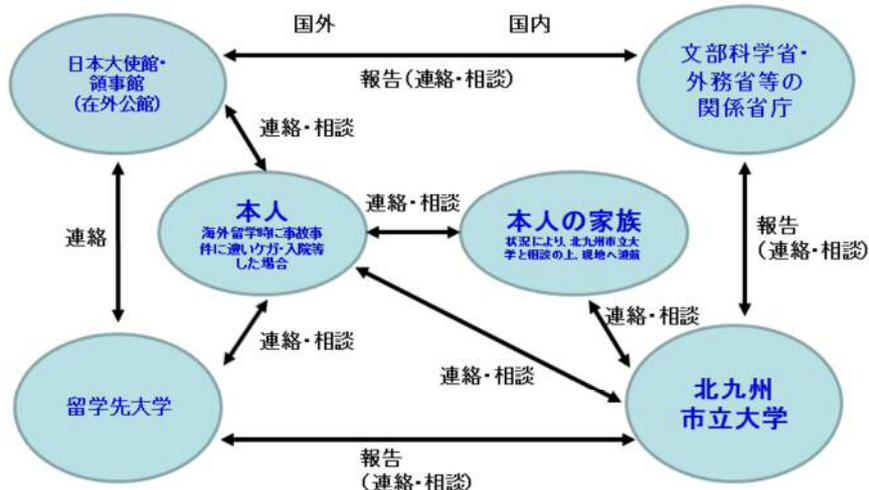
ホームステイでのトラブル対処のポイントは、我慢せず、できるだけ早い段階でホストファミリーと話し合うか、留学先大学のホームステイ担当者に相談することです。

海外では我慢していても誰も分かってくれません。「何も言わない」ということは、「その状況に満足している」と周囲からは思われています。よほど行き届いた学校でなければ、皆さんの様子を察してくれるということはありません。日本人の国民性として過剰に我慢してしまう、といった特徴があります。本音をぶつけることで、その後のコミュニケーションがスムーズに進むこともあります。

特に問題になりやすいのは食事に関する問題です。食事の量が多い、少ない、いつも同じものが提供される、冷凍食品ばかりが続く、という不満が寄せられることが多いようです。こうした問題は留学先大学のスタッフと相談したり、直接、ホストファミリーと話し合ってください。「食事を残してしまうと悪い」と思って、無理をする必要はなく、この半分くらいの量でいいとか、肉(魚)は苦手だとかむしろはっきりと告げるべきです。いつも同じものが出てしまう場合も、思っていることを話してみることが大切です。

もしトラブルにあったら

留学先で事件・事故等が発生した場合の連絡網



18

事件・事故などが起こった場合、この図にあるように、北九州市立大学、留学先大学の窓口、家族に連絡をしてください。状況に応じて、日本大使館にも救援を頼むことも有効な場合があります。それぞれの連絡先を確実に控えておいてください。

できたら出発前に、家族とともに危機発生時の連絡方法についてシュミレーションをしておき、万一事故が起きた場合に、適切に行動できるよう備えておくといでしょう。また、持ち物として、海外で使える携帯電話が護身のために役に立つことがあります。

2011年2月に発生したニュージーランドでの地震で、倒壊した建物の中から家族に携帯電話で連絡をとれた日本人学生が、重傷を負いながらも救出されたケースがありました。

もしトラブルにあったら

- 緊急連絡先を書いたメモを常時携帯しましょう。
(氏名・血液型、派遣先住所・電話番号など)

<大学への連絡>

- 防災センター(夜間・休日) +81-93-964-4110
- 国際教育交流センター +81-93-964-4202
E-Mail: kkouryu@kitakyu-u.ac.jp

<現地日本大使館・総領事館>

住所

電話

19

氏名・血液型、派遣先住所・大学、家族、保険会社の電話番号など、緊急連絡先を現地語で書いたメモを常時携帯しましょう(落とさないように！)。

大学の連絡先、メールアドレスは必ず控えてください。また、現地日本大使館総領事館の連絡先も控えておいてください。緊急時の家族への連絡体制の確認を行っておいてください。

本学留学プログラムに参加した皆さんが万が一事故や事件に巻き込まれた場合には、大学側も安全確保や救済に最大限の尽力をいたします。そのためにも、渡航及び留学中は、本学との速やかな連絡・報告が可能な状態を保っておくことが必要です。一方、海外での事故や事件、トラブルの発生については、プログラム主催者である大学がコントロールできない種類のものが多いということを認識し、自己責任のもと、北九州市立大学の学生としての自覚をもって行動していただくようお願いします。

緊急連絡先カード例

Student Emergency Information Card	
Student Name:	Citizenship:
Study Abroad Emergency Contact	
Study Abroad Program Name:	
Abroad Program Emergency Contact:	Relationship:
Phone #:	Address:
Email:	
Insurance information	
24Hour Phone #:	Insurance Company:
Policy #:	
Special Medical Conditions:	
Home (Japan) Emergency Contact	
Name:	Phone#:
Address:	Cell #
Email:	
Home University Information	
School Name: Tokyo University of Foreign Studies, JAPAN	
Phone #:+81-42-330-5182	
Address: 3-11-1 Asahi-cho Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 JAPAN	
Local Japanese Consulate/Embassy	
Consulate:	Phone #
Address:	

皆さんが、実り多い留学を終え、無事に日本へ帰国することを心から願っています。

北九州市立大学国際教育交流センター